

人文社会学専攻

(2023 年度以降入学者用)

※本専攻は令和 5（2023）年度入学者よりコース再編となり、本ページは再編後の内容です。

コース再編の趣旨等については[こちら](#)（2021.6.告知）をご覧ください。

本専攻は、歴史学コース、地理学コース、社会学コースの 3 コースで構成されています。歴史学・地理学・社会学が、従来の枠組にとらわれることなく有機的に連携して、社会科学や人文科学、さらに自然科学に及ぶ多彩な授業科目を用意しています。人間をめぐる時間・空間・関係についての高度で専門的な探究をおこなうべく問いを深め、シルクロードに育まれた国際都市である奈良からひろく世界へ目を向けて、多彩な研究と教育を進展させることを目指しています。

本専攻の三つのポリシー

[こちら](#)をご覧ください。

入試案内

2023 年度入学志願者用の「奈良女子大学大学院 人間文化総合科学研究科(博士前期課程) 学生募集要項」は[こちら](#)(PDF が開きます)

各コースの紹介 ※本専攻では令和5(2023)年度より下記の全3コースへコース再編。

●歴史学コース

歴史学コースは、日本、アジア、ヨーロッパを中心に、政治史、社会史、思想史、文化史、考古学、美術史といった多様な視点、方法により、歴史をめぐる問題について研究を行います。さまざまな言語で記された文献の読解・分析、人間が創り出したモノや作品も含めた資史料の調査、フィールドワークなどに関する高度な知識や技法を身につけるとともに、人文・社会科学、自然科学等の分野を問わず必要とされる歴史的思考を培います。

主な研究分野名：日本史・東洋史・西洋史・考古学・美術史学

▶[歴史学コースの詳細](#)（本ページ内の該当箇所に飛びます）

●地理学コース

地理学コースでは、人文地理学、自然地理学、地誌学に加え、社会・経済・文化、環境問題、自然災害などに関わる地域研究も視野に入れながら、人間活動と地域・環境との関係性を多面的に研究しています。上記の諸学問の理論を学ぶとともに、地域調査データや地理情報の高度な解析・分析手法、インタビューやアンケートによる調査方法などを身につけるための教育を行います。このような専門的な技術・知識を活かしつつ、地域が直面する諸問題を的確に把握し、その解決策を導き出すために多様な人々と協働して、主体的に研究を進めていく学生を育てます。

主な研究分野名：人文地理学・自然地理学・地誌学・地域研究

▶[地理学コースの詳細](#)（本ページ内の該当箇所に飛びます）

●社会学コース

社会学コースは、人々のつながり(関係)とそのつながりを基礎とした仕組み(制度・構造)と、それらを持続あるいは変化させる媒体(文化・コミュニケーション)を研究対象としています。人間の多様性やグローバル社会への視座も重視しながら、高度で専門的な社会学的思考力と分析技法を習得します。さらに、社会学的な探究と関わりの深い文化人類学や、ジェンダー論、観光論、メディア論なども学びつつ、現代社会において解明すべき課題を自ら設定し、その課題に積極的かつ独創的に取り組む能力を身につけます。

主な研究分野名：社会学

▶[社会学コースの詳細](#)（本ページ内の該当箇所に飛びます）

教育理念

人文社会学専攻は、歴史学、地理学、社会学のいずれかを基盤として、学際的に諸問題を探求できる人材を育成することを目的としています。従来の枠組みにとらわれることなく、関連分野に対しても熱いまなざしを注ぐことができる意欲的な学生を望みます。

求める学生像

本専攻および各コースでは、次のような資質と能力を有する学生を求めます。

【求める学生像:専攻全体】

- ・専門分野に関する基礎的知識
- ・資史料や文献を読み解くための語学力
- ・調査・分析、フィールドワークなどを行うための研究方法に関する経験・知識
- ・調査結果や文献などを適切に分析し、論理的に説明する能力
- ・大学での学修・研究を基盤とした明確な研究展望
- ・社会生活に根ざした真摯な問題意識
- ・大学院における研究を広く社会に還元する意欲

【求める学生像:歴史学コース】

- ・日本史, 東洋史, 西洋史, 考古学, 美術史に関する基礎的知識
- ・文献を読み解くための語学力・分析力
- ・資料の調査・分析, フィールドワークなどを行うための方法に関する経験・知識
- ・自由な発想に基づく独自の課題に主体的・積極的に取り組む能力
- ・調査結果や文献などを適切に分析し, 論理的に説明する能力
- ・大学での学修・研究を基盤とした明確な研究展望
- ・社会生活に根ざした真摯な問題意識
- ・大学院における研究を社会に還元する意欲

【求める学生像:地理学コース】

- ・地理学(人文地理学, 自然地理学, 地誌学)に関する基礎的知識
- ・地域調査を自ら計画・実践する能力
- ・調査結果や文献などを適切に分析し, 論理的に説明する能力
- ・大学での学修・研究を基盤とした明確な研究展望
- ・社会生活に根ざした真摯な問題意識
- ・大学院における研究を社会に還元する意欲

【求める学生像:社会学コース】

- ・社会学全般に関する基礎的知識
- ・資史料や文献を読み解くための語学力・分析力
- ・調査・分析, フィールドワークなどを行うための研究方法に関する経験・知識
- ・調査結果や文献などを適切に分析し, 論理的に説明する能力
- ・大学での学修・研究を基盤とした明確な研究展望
- ・社会生活に根ざした真摯な問題意識
- ・大学院における研究を社会に還元する意欲

他大学との連携

他大学大学院との単位互換制度があります。京都大学大学院(文学研究科・人間環境学研究科)や神戸大学大学院(文学研究科)など提携をしている大学大学院の授業を在学中に受講し、単位を取得することが可能です。さらに履修登録により先方大学の図書館の利用が可能となる場合もあるので、研究の幅を広げることができます。

次ページからは、コース別の詳しい紹介です

歴史学コース

令和5（2023）年度入学者以降に適用される再編後のコース紹介です。

歴史学コースの概要

歴史学コースは、日本史・東洋史・西洋史・考古学・美術史から構成されており、歴史を総合的に学ぶ場を提供しています。さまざまな言語で記された文献の読解・分析や、人間の諸活動の成果である遺跡や遺物、文化財などの見学・調査を通して学びを深めるとともに、対象とする時代や地域、方法の差異を越えて意見交換を行うことにより、広い視野から歴史上の諸問題について考えるコースです。



絵図の検討

そこでは、日本・アジア・ヨーロッパを中心に、さまざまな地域のアイデンティティについて、また、いろいろな時代の政治や経済、外交、社会、思想、文化について、自分自身の問題関心を育みながら学ぶことができます。古代日本の都がおかれ、列島規模の交通の、さらには国際交流の一つの拠点であった奈良の地は、居ながらにして歴史を感じさせてくれるところです。そうした環境のなかで、みずからの興味・関心を学問上の問いへと深め、追究することにより、地域間格差や紛争、環境問題など現代の私たちが抱える問題に向き合う上でも広く求められる歴史的思考を培うことができるでしょう。

こんな授業があります

修士論文の作成を進める演習授業等をふくめ、次のような内容の特論科目が開講されています。これらは、毎年異なるテーマで教員それぞれの専門的な研究領域を講じるものです。

日本古代史特論・演習／日本中世史特論・演習／日本近代史特論・演習／
日本文化史特論・演習／東洋史特論・演習／東洋古代史演習／西洋史特論・演習／
考古学特論・演習／アジア美術史特論・演習／古代文化学特論

スタッフと専門分野

村上 麻佑子【専門分野】日本古代史【研究内容】先史から古代にかけての貨幣流通とその意義についての研究、および古代における災害・飢饉と貨幣の関係についての研究。

西谷地 晴美(2024年3月31日退職予定)【専門分野】日本中世史、環境歴史学、過去認識論【研究内容】気候変動や自然災害が日本中世の社会や国家に与えた影響に関する研究／日本中世の社会と所有を関係論の視点から再考／日本中世の歴史意識を文明の視点から再考。

田中 希生【専門分野】日本近現代史【研究内容】文学や哲学を駆使し、人文学的なアプローチから日本における近代的なもの、人間的なものの意味を探求。

西村 さとみ【専門分野】日本文化史【研究内容】「日本的」なるものの内実とその形成・変容の過程を、さまざまな文化事象にそくして考察する。

矢島 洋一【専門分野】内陸アジア史、イスラーム史【研究内容】内陸アジア史、特にイスラーム時代の中央アジア史。スーフイズム(イスラーム神秘主義)の歴史、モンゴル帝国期の東西交流史、帝政ロシア統治期の西トルキスタン史等に関心がある。

木村 容子【専門分野】西洋中世史【研究内容】中世ヨーロッパの宗教史・文化史の研究。イタリア都市社会史の研究。

宮路 淳子【専門分野】考古学、環境考古学【研究内容】遺跡から出土する考古遺物、環境との関わりを示す動植物遺存体や土壌といった遺物の分析を通じて、先史・古代の環境と人間との関わりを探り、当時の社会・経済基盤を考察する。

佐藤 有希子【専門分野】視覚芸術論、日本東洋美術史【研究内容】仏教美術史。特に7世紀から13世紀の毘沙門天像の成立と展開の様相について、日本にとどまらず、広く中国・朝鮮半島から中央アジアにいたる地域を対象とし、作品研究とともに関連する文献資料の徹底した分析を通じて、作品の社会的・思想的背景まで探る。

修了後の進路

本コース修了後進路は大きく二つに分かれます。ひとつは就職、もうひとつは博士後期課程への進学です。

就職先は、修士論文執筆の過程で培った専門知識やフィールドワーク・情報整理の能力を生かして、一般企業以外にも、中高の教員、官公庁、メディア関係など多岐にわたっています。高等学校で歴史を担当する教員、市役所や県庁の職員、海外で交渉にあたる政府職員、企画展示を通して人々を歴史の世界に誘う学芸員、日々取材に走り回るカメラマンなど、修了者(採用決定による中退を含む)たちは多方面で活躍しています。

いっぽう、修了者のなかには、大学教員といった教育・研究職や研究を生かした専門職の道をめざして、博士後期課程に進学する人もいます。進学先は本学が中心ですが、他大学の大学院に進むケースもあります。

奈良市役所、葛城市役所、高知市役所、射水市役所、小松市役所、大阪府教育委員会(高等学校)、富山県教育委員会(高等学校)、奈良市教育委員会、芦屋市教育委員会、奈良女子高等学校、橿原考古学研究所、元興寺文化財研究所、橿原市教育委員会文化課、(一財)本願寺文化興隆財団(独)国立美術館、講談社、思文閣出版、TOHO シネマズ(株)、(株)大宮製作所

*以上は、2022年度以前入学者(古代文化学コースおよび歴史学コース)の進路の一部です。

研究活動紹介

史学会と『寧楽史苑』

奈良女子大学史学会は、歴史学の研究・教育の発展と会員相互の親睦をはかるために、会誌『寧楽史苑』の発行、月例会を中心とした研究会、秋の総会とそれに伴う講演会やシンポジウムの開催などを行っています。歴史に関係する奈良女子大学教員・在学生・卒業生が会員です。

『寧楽史苑(ならしえん)』は、史学会が毎年一回発行している会誌です。大学院生や教員の研究論文が主に掲載されています。時には優秀な卒業論文が掲載されることもあります。月例会の研究報告の概要も載せられていますので、大学院生の研究内容を知ることができます。

その他の研究活動

以上のほかに、在籍者がこれまで参加してきた研究会としては、次のようなものがあります：日本史研究会、大阪歴史学会、関西中世史研究会、関西フランス史研究会、関西イタリア史研究会、関西ベルギー史研究会、近代社会史研究会、関西政治史研究会、ハプスブルク帝国史研究会、母子衛生学会など。

修士論文タイトル

大学院博士前期課程の最終的な修学目的は、それぞれのテーマで質の高い修士論文を作成することにあります。これまでの修士論文タイトルには下記のようなものがあります。

- ドイツレクイエム考—レクイエムの母語化に宿るドイツ観—
- 『古事記』における国家成立
- 戦国期の宗教観
- 仮名日記の成立
- 平泉澄の歴史理論の展開と史学史上の位置付け
- 崇徳天皇論
- 能楽の本意
- 古代・中世の統治観
- 色彩と人間—平安・鎌倉期を中心に—
- バイエルンにおけるナチス・ドイツの祝祭
- 古代・中世日本における月信仰
- 軍記物語における「敗者」の語りとその思想
- 19世紀後半におけるインド茶の流通
- ニホンオオカミ観の史的変遷
- 中国の三足烏と日本の八咫烏
- フランス革命期における政治と宗教
- 〈元服〉の揺籃期—日本古代における人間観の考究—
- 十五年戦争期の詩人たち—日本近代における詩の性質と民衆とのかかわりから—
- 語られる時間—災害史料にみる「前代未聞」と過去認識—
- 古墳時代における北部九州豪族について
- 後期マムルーク朝におけるカイロとナイル—都市と災害の共生—

*以上は、2022年度以前入学者(古代文化学コースおよび歴史学コース)による修士論文タイトルの一部を掲げたものです。

地理学コース

令和5（2023）年度入学者以降に適用される再編後のコース紹介です。

地理学コースの概要

文系・理系の知を融合する総合的な科学の構築をめざす地理学コースでは、人文地理学、自然地理学、地誌学に加え、社会・経済・文化、環境問題、自然災害などに関わる地域研究も視野に入れながら、人間活動と地域・環境との関係性を多面的に研究します。さらにこれらに関連する諸学問の理論について学ぶとともに、インタビューやアンケートを用いた調査方法、地域調査データや地理情報の高度な解析・分析手法を身につけることで、野外調査を含む地域調査を自ら企画・実践する能力を養うことができます。



舟屋の見学（京都府伊根町）

このような専門的な知識・技術を活かして、たとえば、地域の自然・社会・経済、都市の成り立ち、まちづくり、生活文化、ツーリズム、ポピュラーカルチャー、ジェンダー、景観、環境問題、自然災害などのテーマについて、国内や海外をフィールドとして、グローバルな視点からミクロな視点まで、多様な空間スケールで研究を行います。地域に関わる多様な資料・情報・データの分析に必要な高度な技術・知識をしっかりと身につけ、人間活動と地域・環境との関係性を多面的に捉える鋭い観察力と的確な分析力を培うことができる点が、本コースの大きな特徴です。

こんな授業があります

修士論文の作成を進める演習授業等をふくめ、次のような科目が開講されています。これらは、毎年異なるテーマで教員それぞれの専門的な研究領域を講じるものです。

都市社会地理学特論・演習／地域分析特論・演習／文化地理学特論／地域環境論／
行動地理学演習／人文地理学特論／自然地理学特論・演習／自然地域環境学特論・演習／
気水圏環境学特論／地域環境調査法

スタッフと専門分野

内田 忠賢（2024年3月31日退職予定）【専門分野】歴史・文化地理学、日本民俗学、大衆文化論【研究内容】都市をフィールドにした祝祭および生活誌の調査・研究／旅と娯楽に関する文化誌的な調査・研究／景観・空間とは異なる「風景」と「場所」の調査・研究／地理学史・民俗学史の研究

高田 将志 【専門分野】自然地理学、第四紀学、地形学 【研究内容】第四系の TL・OSL・ESR 年代測定、第四紀の環境変動と自然災害/ 年代資料の得にくかった各種試料を対象に、TL・OSL・ESR 法を駆使した新しい年代データの獲得を目指し、それらをもとに第四紀の環境変動や自然災害履歴を明らかにする。

吉田 容子 【専門分野】社会地理学、都市地理学、経済地理学 【研究内容】ジェンダーをはじめとする社会的諸関係が空間の構築や再編に関わる重要な要因であることを、都市空間における監視・統制、米軍基地周辺歓楽街の形成、地域労働市場と女性就業など、具体的な事例研究をつうじて明らかにする。

石崎 研二 【専門分野】都市地理学、地理情報科学 【研究内容】都市の立地に関する理論を数理モデルによって再解釈し、現実地域におけるマクロな都市の立地動向を計量的に分析する。また、GIS を用いた空間分析や地域データの統計分析を用いて、商業施設をはじめとする様々な施設の立地メカニズムを明らかにする。

西村 雄一郎 【専門分野】行動地理学、時間地理学、社会地理学 【研究内容】グローバル化の中で起こっている生活の質の変化について、時間地理学の方法を用いて分析する。また、現在の日常生活に大きな影響を与えるようになった GPS(汎地球測位システム)や GIS(地理情報システム)と社会の関係について、明らかにする。

浅田 晴久 【専門分野】文化生態学、気候学、アジア地域研究 【研究内容】フィールドでの観察や機器を用いた計測により、自然環境の変化と地域住民の関係について明らかにする。インドやバングラデシュなど南アジアの村落部でフィールドワークを行い、地域の諸問題を考える。

修了後の進路

修了後は、専門知識を活かして、国家・地方公務員、開発コンサルタントや地理情報を扱う民間企業、NPO 職員、中学・高校の社会科や地歴分野の教員などに就職することを想定しています。研究職を目指して、本学や他大学の博士後期課程へ進学する人もいます。以下は、近年の修了生の進路です。

- ・地方公務員: 国際航業株式会社、日本マクドナルド株式会社、豊明市役所ほか
- ・一般企業: 日本生命相互会社ほか
- ・博士課程進学: 京都大学大学院、奈良女子大学大学院
→博士課程修了後の進路: 総合地球環境学研究所研究員、日本電子株式会社研究員

*以上は、2022 年度以前入学者(地域環境学コースおよび社会情報学コース[地理学分野])の進路の一部です。

修士論文タイトル

大学院博士前期課程の最終的な修学目的は、それぞれのテーマで質の高い修士論文を作成することにあります。これまでの修士論文タイトルには下記のようなものがあります。

- 2011年東日本大震災以降の和歌山県沿岸域における津波対策の進展と課題
- 訪問介護職員のライフコースに関する研究
- 茶産地の維持に果たす農家ネットワークの役割
- 地域活性化の担い手としてのコミュニティ・ビジネスの可能性
- 奈良県吉野地域における木材加工業の生産構造の変化
- 奈良盆地における孤立神社林の植生構造
- 奈良盆地東縁断層帯における変動地形の再検討
- 精神障がい者にとっての「脱施設化」と就労・生活支援
- 平城京域遺跡堆積物の珪藻分析からみた古環境
- 都市近郊農村における里山利用の変遷と保全に向けての課題
- 出産場所の地理学

*以上は、2022年度以前入学者(地域環境学コース)による修士論文タイトルの一部を掲げたものです。

社会学コース

令和5(2023)年度入学者以降に適用される再編後のコース紹介です。

社会学コースの概要

私たちの生きる社会は、人々のつながり(関係)とそのつながりを基礎とした仕組み(制度・構造)と、それらを持続あるいは変化させる媒体(文化・コミュニケーション)から成り立っています。社会学コースでは、これら社会を構成する要素を基本的視点に置きつつ、現代社会で生じている諸現象を読み解くことを目的としています。具体的には、グローバル化、ジェンダーと家族、都市と地域、格差と不平等、コミュニティと社会ネットワーク、文化とメディア、多様性が進展する社会における共生などのさまざまなテーマ・領域を扱います。

コースでの学びを通して、人間の多様性やグローバル社会への視座も重視しながら、高度で専門的な社会学的思考力と分析技法を習得します。さらに、社会学的な探究と関わりの深い文化人類学や、ジェンダー論、観光論、メディア論なども学びつつ、現代社会において解明すべき課題を自ら設定し、その課題に積極的かつ独創的に取り組む能力を身につけます。



社会学のさまざまな文献

こんな授業があります

修士論文の作成を進める演習授業等をふくめ、次のような科目が開講されています。これらは、毎年異なるテーマで教員それぞれの専門的な研究領域を講じるものです。

理論社会学特論・演習／社会学研究法演習／質的調査法演習／計量社会学特論・演習／
経験社会学特論／文化社会学特論・演習／地域社会学特論・演習／観光社会学特論・演習
ジェンダー社会学特論・演習／文化人類学特論・演習／文化とメディア特論

スタッフと専門分野

小川 伸彦 【専門分野】文化社会学、文化遺産論、デュルケーム社会学 【研究内容】「文化」生成の過程と機能に関する研究など

三部 倫子 【専門分野】家族社会学、医療社会学、SOGI・LGBT 【研究内容】LGBT がどのように「家族をしている」(doing family)のかに関する研究／性的指向や性自認をめぐる医療上の課題とそれらの課題を乗り越える取り組みに関する研究を、主にインタビューや参与観察などの質的調査の手法を用いて検討する。

寺岡 伸悟 【専門分野】社会学、観光社会学、地域社会学、メディア文化論 【研究内容】現代社会と観光、地域づくり、なら研究

林 拓也 【専門分野】社会学、計量社会学、社会階層 【研究内容】職業の分離や不平等構造、人々の社会意識に関して、社会調査と統計分析による計量社会学的手法を用いて検討する。

水垣 源太郎 【専門分野】地域社会学、組織社会学 【研究内容】地域社会と地方自治のネットワーク分析、子育てに関するサポート・ネットワークの実証的研究

武藤 康弘(2024年3月31日退職予定) 【専門分野】文化人類学、民俗学、映像人類学、民族考古学 【研究内容】日本の農耕儀礼、民俗芸能、農山村の食文化、儀礼食の研究。中国の少数民族の非物質文化遺産の研究。縄文時代の生活文化の研究。

修了後の進路

修了者は、コンサルタント・情報システム・交通運輸等の企業や、業界紙等のメディア関係、大学やNPOの職員、中学高校の社会科や公民分野の教員などとして活躍しています。さらに研究を深めるために、本学の博士後期課程へ進学する人もいます。

静岡県庁、奈良市役所、奈良市教育委員会(高等学校)、京都府教育委員会(中学校)
(株)JR西日本あいウィル、特定非営利活動法人まちづくりねっと・うじ、社会福祉法人ぷろぼの、
(株)ママスクエア、(株)ガスレビュー、公益財団法人 福武財団

*以上は、2022年度以前の入学者(社会情報学コースおよび文化メディア学コース等[社会学分野])の進路の一部です。

修士論文タイトル

大学院博士前期課程の最終的な修学目的は、それぞれのテーマで質の高い修士論文を作成することにあります。これまでの修士論文タイトルには下記のようなものがあります。

- 地方観光都市のまちづくりにおけるアクターと空間の重層性に関する研究—京都府宇治市を対象に—
- 中国人看護師の滞日志向及び帰国志向に関する社会学的研究
- 教員間のジェンダーギャップに関する研究—主として中等教育における現状の把握と対策の検討—
- 中国における中学生の教育アスピレーションの規定要因
- 日本における農産物の地域ブランド化の研究—流通の視点からベトナムへの応用に向けて—
- 観光者からの現代社会論—訪日中国人リピーターを糸口に—
- 簡易宿所型ゲストハウスにおける宿泊経験の多様性—奈良県内の事例から—
- 中国における研学旅行の発展動向と課題—研学実践教育基地を中心に—
- 少年漫画における女性キャラクターの役割—『週刊少年ジャンプ』の分析をとおして—
- 「応援上映」の社会学
- 日本におけるピアノ文化の変遷
- 笑いとリアリティの関係についての研究—東京 03 コント作品を手がかりとして—
- 近代日本における烏龍茶の受容
- 中国残留日本人に関する一考察
- トランスジェンダーのカミングアウト過程における実践
- 未就学児への叱りをめぐる現代の母親の葛藤と悩み
- 中国人女性の第二子出産希望と移住の影響

*以上は、2022 年度以前入学者(社会情報学コースおよび文化メディア学コース)による修士論文タイトルの一部を掲げたものです。